



地区広報

おやまだ

第 12 号

平成 4 年 3 月 10 日



六名町の

獅子神楽

古来、水害、干ばつ、疫病など多くの困難の中で、上納米を完納するのは、大変な苦難で、それに堪えていくには、目に見えない神仏の守護がどうしても必要でした。

六名町の獅子神楽は天下泰平、悪魔退散、五穀豊穰等の祈願の神楽を奏上します。

「神鉦」「神頭」「福取」「后舞」「鼓」「笛」「太鼓」の七人役で構成し、優雅な笛の導音によって、神頭は十種の舞をいたします。

二百数十年來、この舞楽を維持するため各戸の若衆達は十五才(元服時)には必らず、この会に加盟し、三、五年間の厳格な練習によって一人前になり、一役を負う力を修得して、奉仕しました。

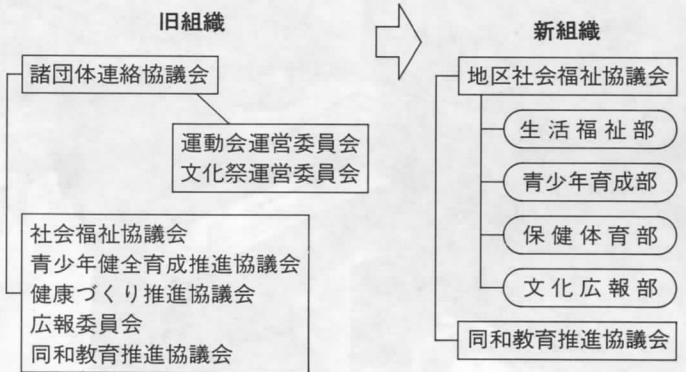
現在では、三つの組が毎年交代で受け持ち、三月と十月に神楽を行います。二週間位前になると、公会所へ集まって、年寄りから若者へ伝えながら練習しています。

六名町が幾度かの大災厄にもかかわらず、のりきってこれたのも、これらの恵みの賜だと思っています。

六名町 田中 弘治郎

明るく住みよい町づくり

小山田地区 新社会福祉協議会発足



小山田地区新社会福祉協議会発足にあたって

会長 丸市 公平



平成三年度、小山田地区は新しく、地区社会福祉協議会の元に、生活福祉部・保健体育部・文化広報部・青少年育成部の四つの部制を敷き、より活発な、住民自らの手による、地域社会づくりを目ざして出発する事になりました。今までは諸団体連絡協議会において、協議事項を決議し、事業は、各種団体や、各協議会独自で開催する事が多く、

住みよい町づくりを

副会長 矢田 日出子



日頃は地区社会福祉協議会への皆様のご協力、厚く御礼申し上げます。地区社協の目的は「住みよい町づくり」の

ために地区の皆さんと共に実質的な活動を広め、地域の方々また各団体が話し合い、協力しながら、新しい小山田に向かって前進していく事だと思えます。各団体がお互に立場は違っても、助け合い共に行動する時間を持ちながら活動したいものです。どうか地区の皆様のご協力をひとえにお願い申し上げます。

なかなかまとまって大きな力になりにくい状態でした。又若い方の活動の場の少ない事も、残念な事でありました。そこで、組織を大きく一本化し、その中で、各部がお互に連携を深めながら、充実した事業を行って行く事、若い世代の積極的な発想や、意見をどんどん出して頂ける様な地域活動が出来ればと思えます。五月末の第一回総会で、皆さんの活発な意見によって決められた今年度の行事も、この文化広報部による「地区広報」の発行で無事終了致します。運動会・文化祭と地区の皆さんの多大な御協力により盛況の内に幕をとじました事誠にありがとうございます。



大きな行事を終えて

保健体育部長 古市 義勝

保健体育部は、各種団体の方々28名で結成され、活動を図って頂きました。今年度の行事を紹介します。

(一) マラソンソフトボール大会 (七月二十八日)

前半は婦人と子供達、後半は一般男子の方々が活躍しました。体育館の屋根を越えたすごいパワーを観せた人もありました。又炎天下、かき水おにぎりの差し入れが好評でした。(ちなみにマラソンソフトとは長時間するソフトの事で、マラソンをしてからソフトをするものではありません)

(二) 地区大運動会 (十月二十日)

絶好の運動会日和で、多数の参加を頂き、大盛況でした。競技への参加者も多く、すばらしい、満足のいく一日で、こんな充実した行事なら春にも運動会をやりたいものです。

(三) 歩け歩け大会 (十一月三日)

今年度は二回目でしたが、前回の倍以上の方々が歩きました。危険の少ないコースを決めるのはなかなか大変ですが南部丘陵公園、くり林での豚汁の味は格別でした。

以上三つの行事を終えて、部員さん達の活躍に感謝します。

今後も皆様楽しんで頂けるように球技大会、ウォークラリー等を組み込んで展開したいと思っておりますので、ふるってのご参加をお待ちしています。



↑ 地区大運動会

地域ぐるみで青少年を見守ろう

青少年育成部長 中村 實

○親と子の会話をもと
 ○青少年の考え、行動を理解しよう
 この二つを課題と決め、長年、青少年健全育成に携わっている戸田氏にも部員となってもらい、充実を計りました。

青少年センターの先生方を講師としてお迎えし、地区全体と各町別研修会を開くことを企画しました。又、地区内の祭礼時の補導を取

り入れ、非行防止、問題少年を小山田から出さないように活動を推進し、地区全体の連携を保ち、青少年を見守りたいと思います。

現在の小山田地区は一見、平穩無事に見えますが、いろいろな問題が一杯、かげに潜んでいる事を重く見て、部員一同力を合わせて取りくんでいく構えです。



→青少年育成研修会

在宅一人暮らし老人の集い

生活福祉副部長 北尾 喜子

平素は地域の福祉活動に御協力頂き、ありがとうございます。

社会福祉についての環境は世界一長寿国となった今、大きく変化してまいりました。

小山田地区社協生活福祉部も福祉事業の充実と諸活動の促進、又住民の幸せを願って、『在宅一人暮らし老人の集い』を十一月十七日に開催し多数の参加を頂きました。皆さん本当に喜んで下さった事は大きな成果だと思えます。皆様の福祉に対する理解とボランティア精神、暖かい心に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

又他にも、日常生活にさまざまな援助の手を必要とする寝たきり老人の方、身体障害等の方々、地域社会の中でその一員として在宅での生活を続けていくには、関係機関や、施設、団体、ボランティアの方等、地域全体の支援態勢(ネットワーク)によりその生活を見守っていく事が望まれます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



↑1人暮らし老人の集い

秋晴れの十一月十七日(日)地区の一人暮らしの方三十八名の内、二十二名の方(六十代〜九十代)が出席して下さいました。

婦人部員で朝早くから、心を込めて手作りの昼食を作り味わって頂きました。

又、催物では、小山田保育園の年長組さんの踊り、サークルの方々の新舞踊、大正琴や詩吟、カラオケ、そして、一人暮らしの山田町小谷たかおさん(九十才)の「さのさ」、堂ヶ山町伊藤末松さん(八十才)の「伊勢音頭」を聞かせて頂き、出席者一同大喜びでした。

今回、出席の方々、それぞれ戦争という大変な時代を越えてこられたと思うと胸がつかまる思いがします。年齢を重ねたお姿に接し、私共後に続く者は、もともと強く頑張っていたのかなければと感じました。どうぞ皆さんお元気でお暮らしください。

まずまず合格点

文化広報部長 矢田 哲

新しい社会福祉協議会に、組織が生まれ変わって、一年が経過しようとしています。

文化広報部の部長として自分自身が、組織の内容もじっくりと理解できず、部員の皆さんに御迷惑をおかけしましたが、皆さんのご協力に依って、文化祭も盛大に行う事が出来ました。部員の皆さんが交替で会場準備、当日の会場案内と働いて頂きました。

最初にお願



↑地区広報編集会議

いした各地区のりポーターの方々の活躍で、地区行事の写真も多数展示する事が出来ました。

文化祭に参加して

文化広報部員 矢田 美智代

役員という事で、初めて文化祭に参加しました。

ちぎり絵、陶芸、編物などのサークル活動の成果が表われている作品や、盆栽、菊など、丹精込めた作品が展示されました。

どれもこれも素晴らしいので、ため息が出ました。



↑文化祭協賛 防火ポスターコンクール審査

又この写真は、地区広報誌の紙面を飾る事が出来て、嬉しく思います。日頃なじみの少ない他町の行事を、今年、集める事が出来、記録としても長く残す事が出来ると思います。

夜遅くまで、熱心な編集会議に部員の熱もぐつと盛り上って来ました。きっと良い地区広報が出来るものと楽しみにしています。

社協全体から考えますと福祉の問題など、色々考えなければいけない事が多く有りますが、初年度としては、まず合格点と嬉しく思っております。

ただ、質問をされる方も見えたので、活動の内容を掲示した方がもっとわかり安くなるのではないかと思います。趣味を持つという事は生活に潤いを与え、その成果発表の場があるという事は大きな励みの場になると思いますので、ずっと続けていけたらと思います。

● 山田町加富神社の節分祭

ウオツチング



毎年2月1日に行われます。

節分祭

山田町 長田 一郎

節分とは、立春の前夜の事を云い、古代中国の暦法とともに伝えられて来た陰陽道の考え方によつて、陰と陽の対立によりもたらす災禍を払う行事として、我が国でも室町時代頃より、節分の夜に、いり豆をまいて厄払いをした行事が今も残っているものです。

加富神社では、従来節分祭を実施されていませんでしたが、昭和六十二年度より、毎年二月一日に節分祭を斎行されることになりました。節分祭当日には、氏子厄年の皆さんから奉納していただきました「福銭入りのいり豆」「福銭入りの紅白餅」を、「本厄、後厄、前厄、還暦」の厄年の皆さんにより厄払いの豆まき神事を行ってもらっています。

この豆まき神事も、年々盛大となり、老若男女、大勢の氏子で境内は、いつも大賑わいです。



● 和無田神社

和無田町 鈴木 正司

和無田地区に古代より有った、西の宮、八幡神社、下の宮、弁財天の社、山の神(三神)の五社を和無田村社(神明神社)としてきたが、明治四十年久間田神社に合祀した。昭和二十二年、久間田神社の境内社(飛地)として、現地に、伊邪那岐命、伊邪那美

● 山田町天王祭



命の御二方をお迎えして分祀、和無田神社と尊称、戦没者の霊十二柱を合祀した。平成三年、久間田神社宮司島橋氏死去により、和無田神社は別個に伊東宮司に司祭を御願することとなった。

● 和無田町花いっぱい運動

● 堂ヶ山町神明社の大樟

樹齢八百年と推定される市内第一の大樟
昭和三十四年市指定天然記念物



山田の天王さん

山田町 矢田 信夫

私の幼い頃、大正時代の山田は農家が大半で二毛作田でした。麦の取り入れ、田植えが終わると骨休みの野上り、そして間もなく七月十四日の天王さんです。

明るい内に風呂に入り浴衣を着て、お小遣いの五銭と、子供用の赤い提灯を持ち、両親や祖父母に連れられて加富神社にお参りしました。

参道には幟竿に赤い提灯が吊るされ、境内には六角の大あんどんと、音頭台から四方に提灯が吊るされ、夜店のガスランプの臭いが鼻をつきます。ベッセイアイスクリン

(特別製アイスクリーム)二銭、かき氷二銭、子供洋食(お好み焼きの粗末なもの)一銭等、ありました。

昔は踊りを青年団と地区民で奉納(起源不明)した記憶があります。私は仕事で長く小山田を離れており帰郷後、昭和五十九年に神社総代を拝命した時に、天王さんにあんどんを吊るそうと決め総代四名が十日以上かかって百二十個作ったのが現在のものです。盆踊りは山田の天王さんからと評判で遠方からも若者が参加してにぎわっています。

地域カメラマンによる

おやまだ



● 小山町神明社と
バイパス



県道バイパスと 鳥居の完成

小山町 永尾昭夫

小山町にとって念願であった県道四日市宮妻線のバイパスが地権者や県土木行政の協力により平成三年度に完成しました。今まで再三渋滞した町内は車の通行量が減り歩行や道路への出入りは大変楽になりました。

又、神明社参道に立っていた鳥居がバイパス工事で撤去されたのを自治会で大嘗祭を記念し新しく建立したのでバイパスと同時に完成といった二重のよろこびとなりました。



● 内山町納涼大会

毎年恒例です。
とうもろこし焼けたかな？



● 鹿間町道路清掃

全戸が出てすっかり美しく



● 西山町弁天さん

神社も改築され、境内の裏には子供広場が有り、いいの場になっています。



● 六名町子供会 バーベキュー大会



● 美里町道路改良工事

306号線への道が広がります。

歴史を訪ねて

貴重な文化遺産

和無田町 鹿間町のマンボ

小山田のおいたち

小山田に人々が住みはじめたのは今から一万余数千年前、先土器時代(旧石器時代)である。けものを追って暮らす不安定な生活の時代の遺跡に小山田中尾山遺跡がある。

縄文時代になって、四日市で最も古いのが堂ヶ山の一色山遺跡である。これによって、小山田に人が住んでいたことが証明される。

弥生時代に稲作

今から二千年ほど前、弥生時代になると稲作技術が大陸から伝えられ、北九州を中心として新しい文化が始まった。土地を広げ、用水も引き、一カ所に定住して、米を食べる時代になった。

マンボとは

横井戸の一つで木材・石材



鹿間町のマンボ



鹿間町のマンボ

今から百余年前、江戸末期から明治維新にかけて、武士の帰農に際して、水田を開拓した時、水不足に対処したのが始ま

マンボの起源

マンボで集められた水は、主に水田の灌漑に用いられてきたが、他の灌漑水路にくらべて形状に特色があり、表流水にくらべて、きれいなため、飲料水や、食器洗い、洗濯などにも利用されてきた。

マンボの分類

〔素掘型マンボ〕

素掘とは、トンネルのように掘っただけのもの。石を積んだり、コンクリートで巻いたりしない。崩れないのは礫を含んだ赤土の堅い地層に掘られているためである。

りだと記録にある。和無田と鹿間は天正十二年

亀山城主の所領であったため幕末になり、亀山藩は藩領の開発計画にのりだし、堀り方の指導をした。

和無田は明治時代、鹿間は幕末から、昭和初期にかけて掘られたようである。

マンボという言葉

近世以来記録に表われる「和語」で、「マンボ」と同語源とみなされるのは「マンボ」「マング」「マブ」「マンボ」「アブ」「カマ」などの変形がみられ北は山形から南は九州まで広く、用いられている。「カマ」は穴、洞穴を意味する方言で全国で使われている。マンボを漢字で書くと、「間歩」「間風」「間夫」「万法」

「間歩」「間風」「間夫」「万法」

マンボが原形でマンボに変化

トビがトンビ、クマバチがクマンバチ、ゴボウがゴンボと変るように、音韻添加といって、マンボがマンブ、マンボというように変化していったようである。

和無田と鹿間がこの型〔伏越型マンボ〕

地面に溝を掘り、両側に石を積み、上に花崗石などの、ふた石を並べて土砂で埋めもどしをしたもの。鹿間はこの型もある。

マンボの掘り方

水の出口にあたる最下流端より、水をかけたい水田面から上流へ向って掘る。横穴の方向を決め、その線上に約36メートル間隔に日穴(たて穴)の位置を決める。つぎに簡易測量の水もり、



和無田町のマンボ

鍾りの糸が、二本の糸と灯心の光がつねに一直線上にくるよう掘り進めば、まっすぐに掘ることができ。

ツルハシや鉄棒で掘る

マンボは最低三人の働き手がいる。

横穴の先頭で上を掘る人は柄を短かく切ったツルハシや鉄の棒を使う。掘った土は柄を短かく切ったジョレンで集め、ソリ(下に竹をはって滑べりやすくした箱)に入れる。たて穴の下にいる人はソリに綱をつけ、たて穴の所まで引っぱり出し、ソリの土を竹籠や藤で編んだ丈夫なモッコに移し、穴の外にいる人と協力して、三本やぐらの滑車で地上へあげる。

明りとりは種油の灯心

中は暗いので、明りとりには、種油を入れた灯心を使った。カンテラはガスが出るため使用しなかった。

作業は地下水位の低い冬から春にかけて行われたが、土砂崩れの危険があり、命がけの作業だった。

横穴を掘る早さは軟かい地層で一日約百八十センチ、硬いところでは六十センチ位だったという。

近年の変化

先人が苦労して完成させたマンボも、近年は用水路の完備、揚水ポンプや耕地整理さらには米の減反政策も追いうちをかけ、ごみが捨てられたり、宅地化で埋められて放置されているのが現状である。

文化環境の基礎

マンボは独創的で貴重な文化遺産である。歴史をささみふるさとの昔に導く案内人でもある。

文化環境の基礎として、みんながマンボを大切に保存する事は郷土小山田の歴史を守ることにもなる。

鹿間町 萩 伸元

〔参考文献〕

「マンボ日本のカネート」 小堀巖編

「マンボ灌漑」 阪野優著

「鈴鹿山麓の民俗」 伊勢民俗学会編

「郷土のすがた四日市」 四日市市郷土史研究会編



和無田町のマンボ 出口付近の横穴の大きさ 幅60cm 高さ100cm 流量は一秒間に0.0086立米 礫層よりなる。礫の最大径30cm 礫の成分は粘土

集水圏	1日の水かさ		
	S14年8月	S15年8月	S16年1月
鹿間町の寺池マンボ	—	11.10cm	8.35cm
和無田のマンボ	6.12cm	6.40cm	ナシcm

和無田のマンボ季節による水の変化(マンボの出口で測定)			
水かさ	春6cm	夏9cm	秋6cm
(一日の水かさ)			

四日市少年少女フットベースボール球技大会

小山田地区子供会 準優勝

地区大会でゼったい優勝して、市の大会に出るんだ」というのがわたしたちの目標でした。そしてついに、目標達成できたのです。

「市の大会でも優勝しよう」という子もあれば、「あの優勝候補の大矢知がいるんだよ、ちょっと自信ないな」という子もいました。

でもいつしうけんめい練習したので、富田一色と河原田に三回コールドで勝ちぬぎ、決勝まで進むことができたのです。でも残念なことに、大矢知に五回コールドで負けてしまい、ほとんどの子が泣いていました。でも小山田では、わたしたちが初めて賞をもら

山田町 桂山佳奈

つたと思うとうれしかったんです。補欠の子が出られなかったのが、ちょっと残念だったけど、ケガ人が出なくてよかったです。最後に監督さんやお世話になった方々、どうもありがとうございました。



監督 矢田京美

いよいよ決勝戦！相手はいつも優勝している強豪大矢知です。思った通り子供達も私も上がってしまい、身体は動かず、実力が出せないうちに負けてしまいました。練習の時は中学生が指導してくれたり、山田西や和無田のソフトの男の子が練習相手になってくれたり、育成会の方々は、指導や差し入れ等してくれました。本当にありがとうございました。おかげで準優勝する事が、できました。子供達には、いい思い出の一ページになったことでしょう。

光輪寺釈迦如来座像

四日市市有形文化財に指定

六名町 田中弘治郎



釈迦如来座像

六名町真宗高田派光輪寺の秘佛、釈迦如来座像は平成三年六月二十四日、四日市市有須賀神社の東隣りに、真言宗

形文化財に指定されました。寺の記録によりますと氏神

の南面山、円満寺と言う寺があり、そのご本尊として尊崇し、釈迦霊仏の限らない功德は中村(現六名町)住民の生活と精神両面の支柱でした。度重なる疫病の流行、干ばつ、水害、乱世、つけ加えての苛酷な上納米の取り立てなど、数多くの災厄の遭遇にもめげずに今日に至る迄、八百余年極めて良好な保存状態といわれるように、供養を行って参りました。

寛正年中当地にご巡錫になった浄土真宗高田派の中興の祖、真慧上人から名号を賜り、現在の光輪寺の前身である、真宗念仏道場が創立されました。

明治に入って、円満寺は廃寺となり、釈迦尊像は、光輪

寺境内に一堂を新築して、ご遷座申し上げ、毎年涅槃会を勤修して参りました。

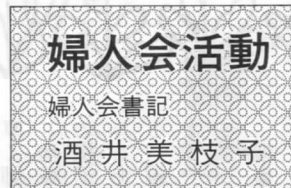
ご開扉は年三回で一月一日の修正会、四月第一日曜の涅槃会、八月十四日の盆会です。春日仏師の作で、像高七五センチ、椀の寄木造り、彫眼、水晶製の白豪、袈裟を右肩に着用し、右手を曲げ、施無畏印、左手は膝の上にあり、願印を結び、右足を前に結跏趺坐しておられます。

均整がとれ、安定して温和で美しく、昭和五十九年には奈良国立博物館にも出品しております。

この機会に、地区の皆様も仏縁を結んでいただけるようになった事を心から喜んでいく次第です。

第一回役員会の時の会長の言葉「婦人会活動はボランティア活動です。」は強く心に残りました。

今迄婦人会に関心なかった私が今年役員をさせて頂き活動に参加(敬老の日のプレゼント、運動会や文化祭への協力等)するに従い、会長の言葉がよく理解できるようになってきました。



かう中で、小山田地区の老人問題は、深く婦人にかかわってくださると思われま

私たち、個々の力は弱いながらも地域で連携し、助け合うボランティア活動を婦人会として取り組んでいきたいと思っています。

又婦人会活動を通じて、たくさんの方と出会い、いろいろ学ぶ喜びも感じています。婦人会へのご協力をお願いします。

健康と生きがい

内山町老人会長 矢田光雄



老人会全国一斉社会奉仕

これからの長寿社会を活力あるものとするためには高齢者自らが積極的に社会活動に参加することです。

高齢者の生きがいの一つ、健康づくり活動の実例をご紹介します。

介します。

「若い頃から身体を動かすことが得意だったので踊りの才能を発揮、民謡踊りクラブで活躍して、とてもいきいきしています。」

「ゲートボールは健康と親睦に最適なスポーツです。ゲートボールの楽しさを一部の人だけでなく、もっと大勢の人に知ってほしいと思います。」

健康づくりは個人個人でみんな違います。無理のないように自分に合った楽しい方法で、行ってこそ、意味があります。効果があがるのだと思います。

この人尋ね

⑦

新舞踊講師として

鹿間町 伊藤美智さん



火曜日の夜、小山田地区市民センターへ、新舞踊のおけいこに出かけます。昼間、疲れてへとへとになっても不思議と踊っていると心も身体もしゃんとなります。先生は、同じ町内で、ずっと以前から、盆踊りを教えてもらっていた伊藤美智先生です。その当時、私が婦人会の仕事をしていましたので、盆踊りだけでなく、民踊を勉強しようとして誘いました。

長い間、体育の教師をしておられたせいか、たちまち日習字、勉強等、公会所で、地区の婦人や、子供達に教えていらつしやいます。今後も体力の続く限り、私達の輪の中心で、活躍してください。期待しています。記 片岡ひろ

本民踊指導者の資格を取得され、地域に踊りの輪を広げていかれました。又フオークダンスや、新舞踊（藤間流、東扇会師範資格）もマスターされ、現在、毎週カラオケに合わせて楽しく教えて頂いています。

踊りは心も身体も動かすので、みんなが若く過ごしているように思います。周りに人にずい分お世話になって、今の私があるのだと思います。私の身体の続く限り、みんなと手を取り合って踊りを続け、健康な生活をしていきたいのです。職業を持つことも大切、家庭のやりくりも大切、友達とのつき合いも大切と、価値感の多様化の時代ですが、踊りを心の支えとして楽しんでおられます。

文芸らん

俳句

- 朝露に濡れし野菜の手入れかな
鹿間町 酒井 三春
- トラクター耕す土に望かけ
鹿間町 酒井 三春

- 小山田軽費老人ホーム俳句同好会
初鶏の新春うたう聲たかし
ふき

- 生きのびし九十二年や除夜の鐘
志せい
- ひそと住む身におくられしお年玉
しのだ
- 独りすぎこれも定めか福沸し
麦笑

- たてよこにランドセル走る春の坂
婦美子

川柳

- ポストには忍者の切手高く跳び
仲よしのきいろい声は釣の川
小山田軽費 松岡婦美子

- 孫の目が一きわきついプラモデル
エロ本をしのび眼でそつと読み
鹿間町 酒井 三春

- 粗大ゴミ昔月賦で泣いた品
田の家山子継がぬ息子のシャツ
を着る
山田町 矢田まさ子

- ふるさとへ安心させる軽い嘘
相談にたとえ話が棍を取る
山田町 矢田 照子

短歌

- ゆきずりの友と語りし別れ道
野辺に咲きたる白菊の花
● 亡き姉の形見となりぬ富有柿
実もたわわなり命日近き
鹿間町 酒井 三春

- 定年を迎えたり今日手続きの
用紙をみつつなに思ふらん
● 夕風に吹かれて歩む琵琶湖畔
枯葉一枚足にまつはる
鹿間町 岸本久美子

詩

陰の力

町が美しくなった
町いっぱい花が咲いた
人の心を豊かにしてくる花が
みんな花をほめる
陰の力を知らないまま

町が美しくなった
四季折々の花が次々と咲く
この花が絶える事の無いよう
みんなが願う
陰の力を知らないまま

町が美しくなった
誰も花を荒らす事も無く
みんなが花を愛している証拠
みんなが陰の力に感謝している証拠
陰の力に
山田町 矢田 春美

地区の人口 5,853人

(平成4年1月1日現在)

町 別	世帯数	人 口		計
		男	女	
山 田 町 (含老人ホーム)	948	930	1,201	2,131
西 山 町	170	316	343	659
小 山 町	144	298	307	605
内 山 町	54	103	117	220
六 名 町	48	96	95	191
堂 ヶ 山 町	111	250	256	506
美 里 町	37	111	106	217
鹿 間 町	255	449	466	915
和 無 田 町	97	199	210	409
計	1,864	2,752	3,101	5,853



編集後記

組織変更後、初めての「おやまだ」誌の編集にあたり、投稿して下さい下さった方々、資料の提供をして下さった方々、厚く御礼申し上げます。地域カメラマンによる各町の様子の記事等、初めての試みもありましたので、早くから、編集を進めてきましたが、ようやく、発刊のはこびとなりました。編集に携っていただいた方々に心から感謝し、今後共、本紙のために皆様のご協力を、お願いいたします。

矢田 哲